

目的 身長は成長の一つの指標と考えられるため、幼児の健康診断には必ず計測される重要項目である。身長を計測する際の被検児の姿勢には立位と臥位とがあり、何歳から立位にするのが適当かの判断は研究者によって異なる。立位正常姿勢が保てなくともいわゆるたっち出来るようになった子供に臥位をしいると、被検児に不安を与え抵抗され大変な困難が伴うため、衣服寸法のための身長を含む多項目の計測には、計測のしやすさから立位姿勢をとらせる場合がある。そこで立位身長と臥位身長との関係の検討を行った。

方法 資料は1977年7月～1978年6月に計測し得られた、1.5歳・3.5歳・5.5歳の健康な男児185名・女児187名、合計372名である。計測値である立位身長と臥位身長から(臥位身長-立位身長)ならびに「(臥位身長-立位身長)/立位身長×100」を算出し、年齢別・性別に統計処理を行い検討を試みた。

結果 1)立位身長と臥位身長の平均値を比較すると、男女児ともに臥位身長が大であり、1.5歳・3.5歳においては男女児ともに有意差が認められた。このことから立位身長と臥位身長とを一緒にして身長とし扱うことには問題がある。2) (臥位身長-立位身長)の平均値の範囲はどの年齢においても、男女児とも1.0～1.6cmであった。なお各年齢間・男女間の平均値の差はほとんどの年齢で有意差が認められなかった。3) (臥位身長-立位身長)の立位身長に対する割合は、性差は認められないが、年齢間では年少児の方が大であるという有意差が認められた。4)立位身長と臥位身長とは高い相関を示す。そこで、立位身長から臥位身長を、臥位身長から立位身長を求める推定式を算出した。